

# 奥三面ダムと遺跡群見学記

川島 隆義\*

地盤工学会北陸支部・日本技術士会北陸支部・新潟応用地質研究会の3会合同見学会が秋晴れの10月21日実施された。

見学会は例会や会誌発行と並んで当会の重要な事業のひとつであり、見学会開催までの準備会では環境・防災・建設などタイムリーな場所の選定に時間を費やした。

去年は姫川流域の災害跡と、その復興状況を見学した。この時、蒲原沢まで足を伸ばしたが、その後の秋の例会開催中に号外が入って、蒲原沢で土石流が発生し、工事関係者が埋まるなどの大きな災害になったことを知った。

今回の見学会は、奥三面ダムがコンクリートの最終打設に入ろうとしていること、遺跡の発掘が進んでいることなど、今を逃すと二度と見る事が出来ないと思われたので、奥三面ダムと遺跡群の見学を行うことにした。

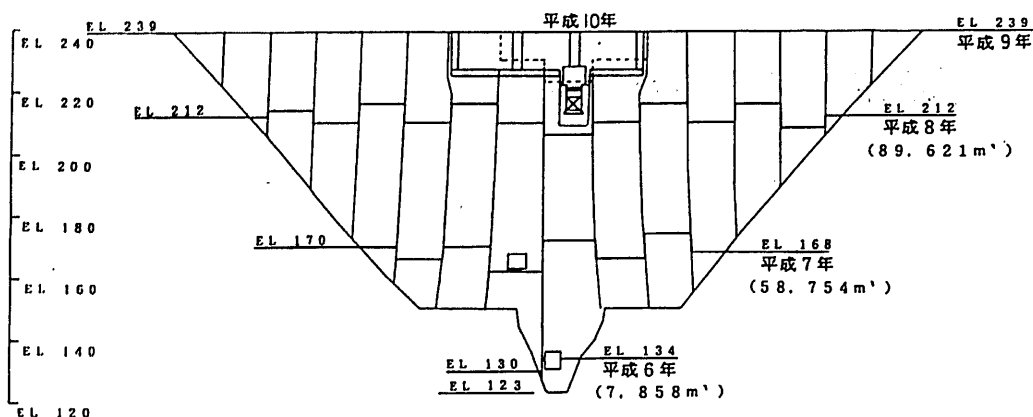
奥三面ダムは平成7年に見学をしており、技術士会北陸支部でも本年見学を行っている。したがって、見学の中心は遺跡発掘現場となった。

当日は、道路が狭小な関係もあって、小型バス2台を新潟交通よりチャーターし、参加者47名が乗り込んで新潟駅前を出発した。昼近くに三面川開発事務所に着き、当会の幹事長でもある石橋所長からダム建設の状況等、説明をいただいた。時間がないのですぐダム現場に向かった。現地では地元小学校の校長会のグループと一緒にあった。

ダム左岸のお立ち台から施工の全容を見ながら説明を受けた。次いで、谷底の堤内仮排水路トンネルまで降りて、副ダムや屹立するアーチダムの威容を見た。説明によれば、全体で25万㎡のコンクリート打設を行う計画で、平成8年10月まで約15万㎡が打設されたとのことである。

---

\* 行事幹事



本体コンクリート打設実績・予定

資料－(2)より

【奥三面遺跡群とその年代】

時代	年代	奥三面の遺跡	主な出来事
縄文時代	約12000年以前	樽口 ガラハギ	狩猟、採集の 移動生活
	草創期 約12000年前～	樽口 ガラハギ	土器が出現する
	早期 約9000年前～	樽口 黒淵	たて穴式住居 での定住生活
	前期 約6000年前～	Ⅷ/Ⅷ、Ⅷ/Ⅷ、Ⅷ/Ⅷ、 アザヤ(下)	温暖化のピーク
	中期 約5000年前～	下ノ、Ⅷ/Ⅷ、Ⅷ/Ⅷ、 Ⅷ/Ⅷ、Ⅷ/Ⅷ、 上ノ、Ⅷ/Ⅷ、下ノ	火焔型土器が 流行する
	後期 約3500年前～	アザヤ(上)、元屋 二又、高台、野	配石遺構が作 られる
	晩期 約3000年前～	元屋敷 本道平	縄文時代の終 わり
弥生時代	約2300年前～ 約1700年前	二又	米作りが始まる
古墳時代	約1700年前～ 約1400年前	沼ノ沢	古墳が出現する

資料－(5)より

次に三面川の右岸を通して上流の遺跡発掘現場へと向かった。奥三面遺跡群の中では最大級の元屋敷遺跡を訪れた。現地では多勢の人達が細かい道具を使って発掘を行っていた。忙しい中、朝日村教育委員会奥三面遺跡調査室の滝沢規郎学芸員から発掘の状況や出土品の説明を受けた。

発掘は三面ダムによる水没予定範囲の全て、約77%を対象として調査を続けているという。既に発掘は10年を経過しているが、19遺跡約16%を本発掘調査することになっている。現在14遺跡約13%に着手しているが、平成10年の湛水が始まるまでに5遺跡2.5%を調査することになっている。

出土品はパンケース7,000箱にも達し、その莫大な量は収納場所にも困るほどのことである。

我々一行は発掘中の遺跡群の中を慎重に歩き、立ち止まりながら説明を受け、何気なく置いてあるように見える発掘中の石斧や土偶を手にした。そして古代の人達の生活に思いを馳せ、心残りではあったが発掘を続ける教育委員会の方々にお礼を述べ帰路に就いた。

発掘の状況や内容について、いただいた貴重な資料の中からその一部を本紙に掲載させていただきました。

## —— 資 料 ——

- |                     |            |                         |
|---------------------|------------|-------------------------|
| (1) 奥三面ダムカラーパンフレット  | (H8年10月現在) | 新潟県三面川開発事務所             |
| (2) 奥三面ダムの現況        | (H9年10月)   | 新潟県三面川開発事務所             |
| (3) 奥三面遺跡群カラーパンフレット | (1997)     | 新潟県朝日村教育委員会             |
| (4) 奥三面ダムに沈む縄文のムラ   | (H9年4月1日)  | 新潟県朝日村教育委員会             |
| (5) 見学のしおり「奥三面調査室」  | (H8年4月)    | 新潟県朝日村教育委員会<br>奥三面遺跡調査室 |
| (6) アチャ平遺跡上段現地説明会資料 | (H9年8月31日) | 新潟県朝日村教育委員会             |
| (7) 元屋敷遺跡           | (H9年8月31日) | 新潟県朝日村教育委員会             |

### ● 新潟県奥三面開発事務所

〒958-02 新潟県岩船郡朝日村大字小川29-3  
TEL 0254-52-1877(代表) FAX 0254-52-4148

### ● 新潟県朝日村教育委員会 社会教育課

〒958-02 新潟県岩船郡朝日村大字岩沢  
TEL 0254-72-7600

# 元屋敷遺跡

資料- (7) より

## 1 はじめに

元屋敷遺跡の調査は、今年で5年目をむかえました。調査面積は、約3haにもおよびます。元屋敷遺跡の最大の特徴は、縄文時代後期後半（約3500年前）～晩期後半（約2500年前）までつづいたムラを、すべて調査していることです。昨年までの調査成果は、パンフレットにのっているため、ここでは今年の調査でわかってきたことを中心に、お伝えします。

## 2 遺 構

元屋敷遺跡ではムラのすべてを発掘調査していることから、住んでいた家、お墓のほか、石斧を作っていた範囲が、おぼろげながら見えてきました。また今年は、当時の人々が食べていた木の実（見学場所2）や、縄文時代前期前半（約6000年前）の可能性がある、木が大量に見つかりました（見学場所1）。

### （1） 家

家には大きく2とおりあります。地面を掘りくぼめた竪穴住居と、高床式または地面を掘りくぼめない平地式の掘立柱建物があります。これまでで、竪穴住居は15軒、掘立柱建物は25棟みつかっています。

竪穴住居の中には、とても大きいものがあります（見学場所3）。住居の外側にめぐる溝の径が約1.2mもあります。約2500年前のもので、同時期の住居としては県内では最大です。

### （2） お墓

お墓も大きく2とおりに分かれます。乳幼児のお墓と思われる埋甕（うめがめ）と、成人のお墓と思われる配石墓（はいせきば）があります（見学場所5）。埋甕は約180基、配石墓は約30基も見つかっています。

配石墓は、ムラの東側にあります。土を掘り込み、まわりに石を張りつけ、ふた石をおいています。長さは約150cm、幅は40～50cm前後のものが多いようです。

## 3 出土遺物

みつかった土器や石器は、パンケースで約6000にもおよびます。この数は、県内の遺跡としては、ダントツの1位です。土器は使いかたによって、様々な形のものが作られていたことが

わかります。中には漆がぬってあるものもあります。

石器のうち、石斧（磨製石斧）は元屋敷遺跡でつくっています。作りかけのものが、約1万本（推定数量）もみつかっています。製作につかうハンマーや、砥石（といし）も数多くみつかっています。石斧の石材は、すぐ近くに流れる三面川で今でも拾うことができる、安山岩（または玄武岩）です。

今年、新たにみつかったものに、木の実があります。トチ、クルミを中心に、ゴヨウマツ、コブシ、ブナ、クリなど10種類以上の木の実がみつかりました。このうちトチ・クルミは、わって実を取り出しています。当時の食べ物を考えるにあたり、重要な資料となりました。木の実がみつかった要因は、水がしみ出していたことから、腐らなかったことにあります。当時の食生活が分かりそうな、貴重な発見です。

#### 4 これまでの成果

元屋敷遺跡の最大の特徴は、当時のムラをほぼ全面にわたって調査していることにあります。家・お墓・道路状の遺構、配石遺構、水場遺構、ムラの中を流れる川などがみつかり、配置とうつり変わりがわかります。これはとても珍しいことで、当時のムラを考えるにあたり、大変に貴重な例となりました。

みつかった遺物の中でも石斧は、元屋敷遺跡の「特産物」です。石斧を物々交換して、足りないものを、補っていたと考えられます。例えば、やじり・キリ・石匙（万能ナイフ）などの素材となる石（頁岩・鉄石英など）は、三面川では取れません。交換の対象となっていた可能性が高く、当時のムラは、このようにして連係を保ちながら生活していたと思われます。

元屋敷遺跡では、全国初や県内最多など、いろいろな形容詞がつくものが多くあります。美術的にみても優れた珍品も、もちろんありますが、当時のムラの様子がわかるという点が、最大の特徴であり、成果と考えています。

—メ モ—

新潟県朝日村教育委員会

奥三面調査室

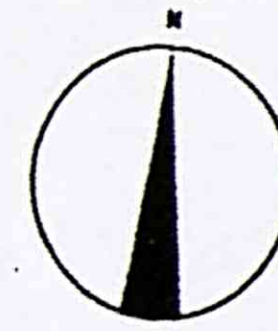
〒958-02 新潟県岩船郡朝日村大字中新保56番地

TEL 0254-72-1577

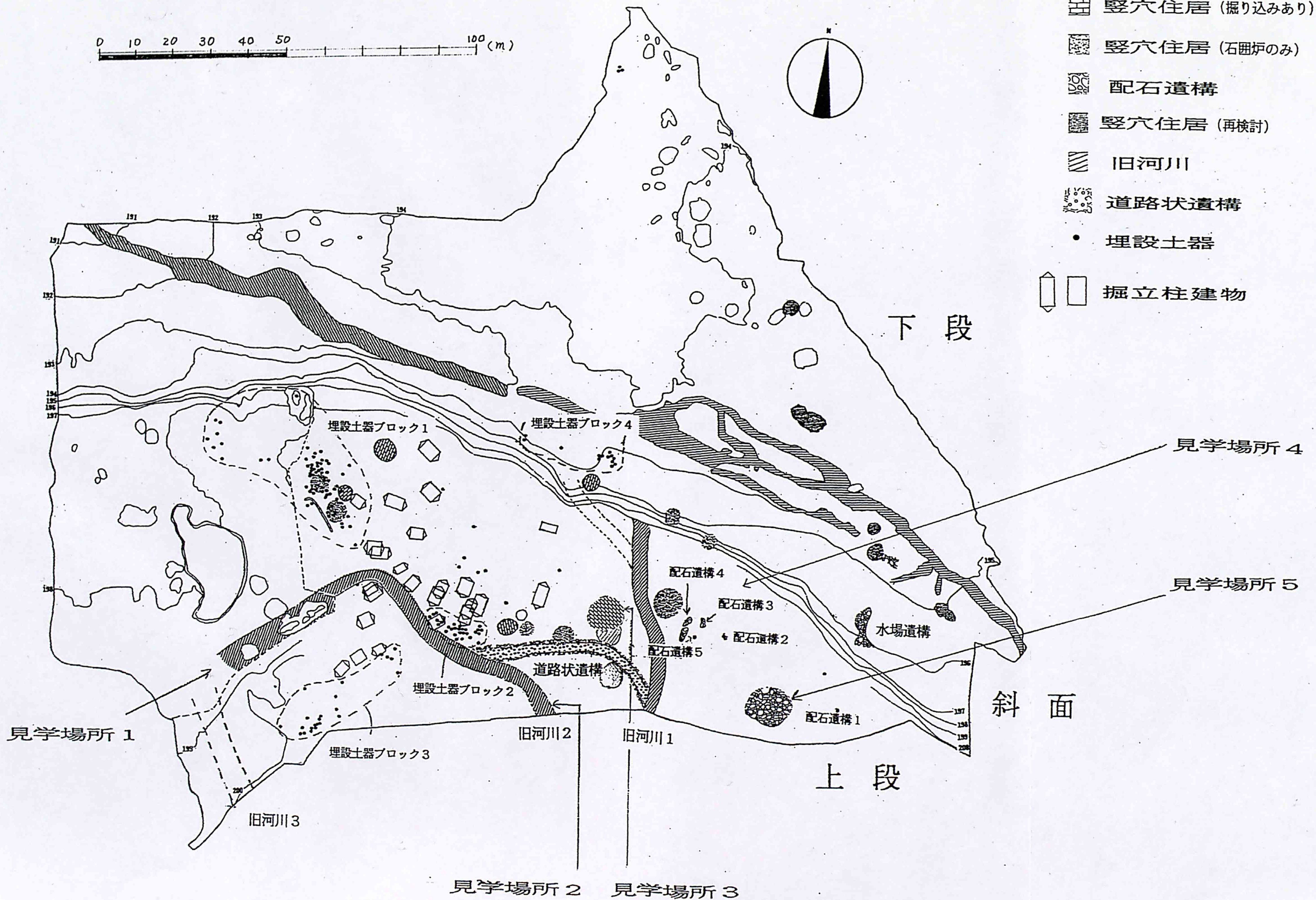


# 元屋敷遺跡全体図 (S=1/1000)

0 10 20 30 40 50 100 (m)



- 竪穴住居 (掘り込みあり)
- 竪穴住居 (石囲炉のみ)
- 配石遺構
- 竪穴住居 (再検討)
- 旧河川
- 道路状遺構
- 埋設土器
- 掘立柱建物





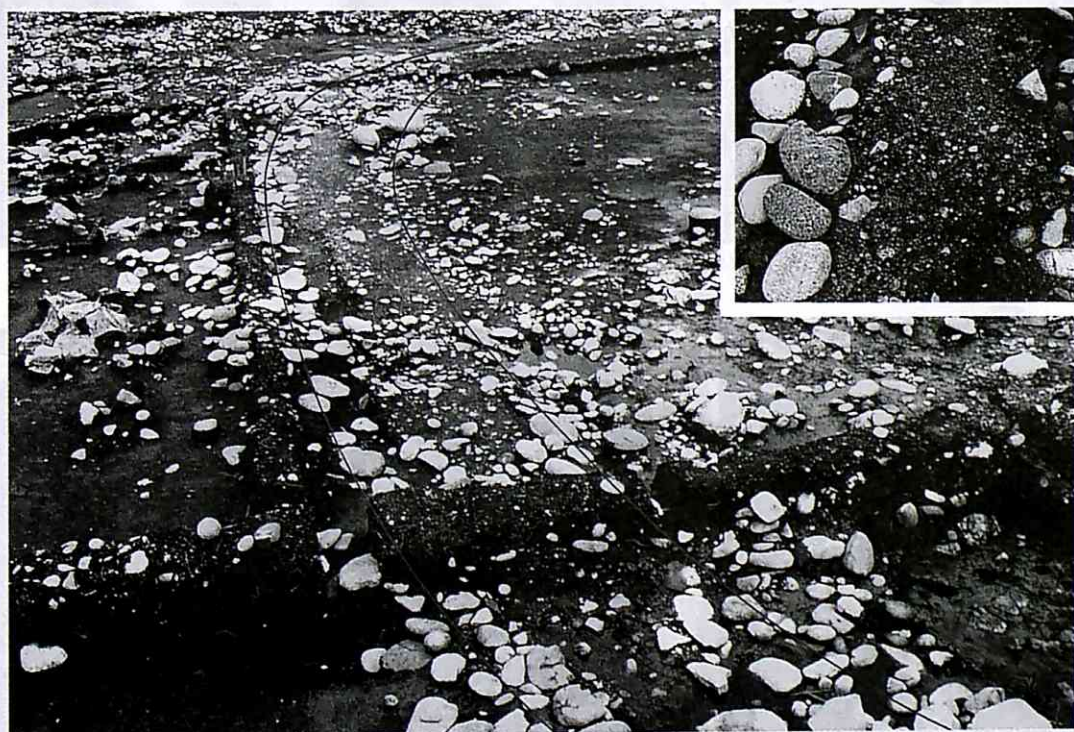
もとやしき  
**元屋敷遺跡**  
(約3,000年～2,500年前)

奥三面遺跡群では、縄文時代の終わりまで続いた最後のムラです。見つかった遺物や遺構は、全国初、県内最多など多くの形容詞が付きます。



**遺跡全景**

竪穴住居・掘立柱建物は楕円形に配置されています。お墓は東側(写真右)と、住居群の外にあります。遺跡内に、川が3本見つかりました。



**道路状遺構**

両側に大きくて扁平な石をおき、その間に砂利を敷いた舗装道路です。縄文時代の舗装道路は、ほかの遺跡では見つかっておらず、全国でも初めての例です。

資料－(1)より



# 元屋敷遺跡

'96年度の時点で、竪穴住居は約10軒、掘立柱建物が約25軒、埋ガメは約160基も見つかっています。建物は何回か建替えが行われており、遺跡の中は柱穴だらけです。



左白線部は竪穴住居、右は埋ガメ群



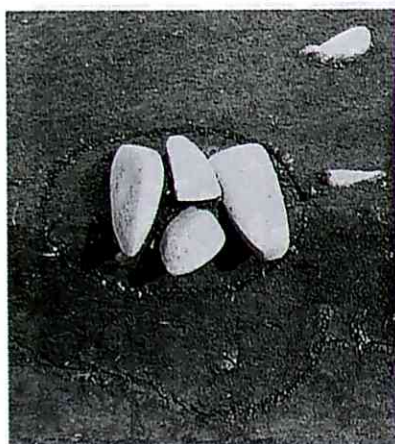
左写真の竪穴住居内にあった道具箱



柱穴群



埋ガメ(石でふたをしています)



石斧(磨製石斧)の埋納



竪穴住居(中央には石組みの炉があります)



# 元屋敷遺跡

見つかった遺物の量は、新潟県の遺跡では最高です。写真下の石斧は、この遺跡で作られたものです。元屋敷遺跡は石斧の工場でもありました。



## 出土土器

- 1・2 香炉型土器  
3 注口土器  
4 人面付注口土器  
5 環状形注口土器  
6 深鉢  
7・8 注口土器(漆塗り)



## 土製品ほか

- 1 人型土製品  
2～5 土偶  
6 人面付岩版  
7 漆塗りにくし  
8・9 ペンダント  
10～12 線刻碟



## 石斧とその製作具

- 1 砥石  
2・3 砥石  
4～8 磨製石斧の製品  
9～12 磨製石斧の未製品





見学写真-1 ダム底での打設状況を見る



見学写真-3 石ころひとつでも形を取り記録する

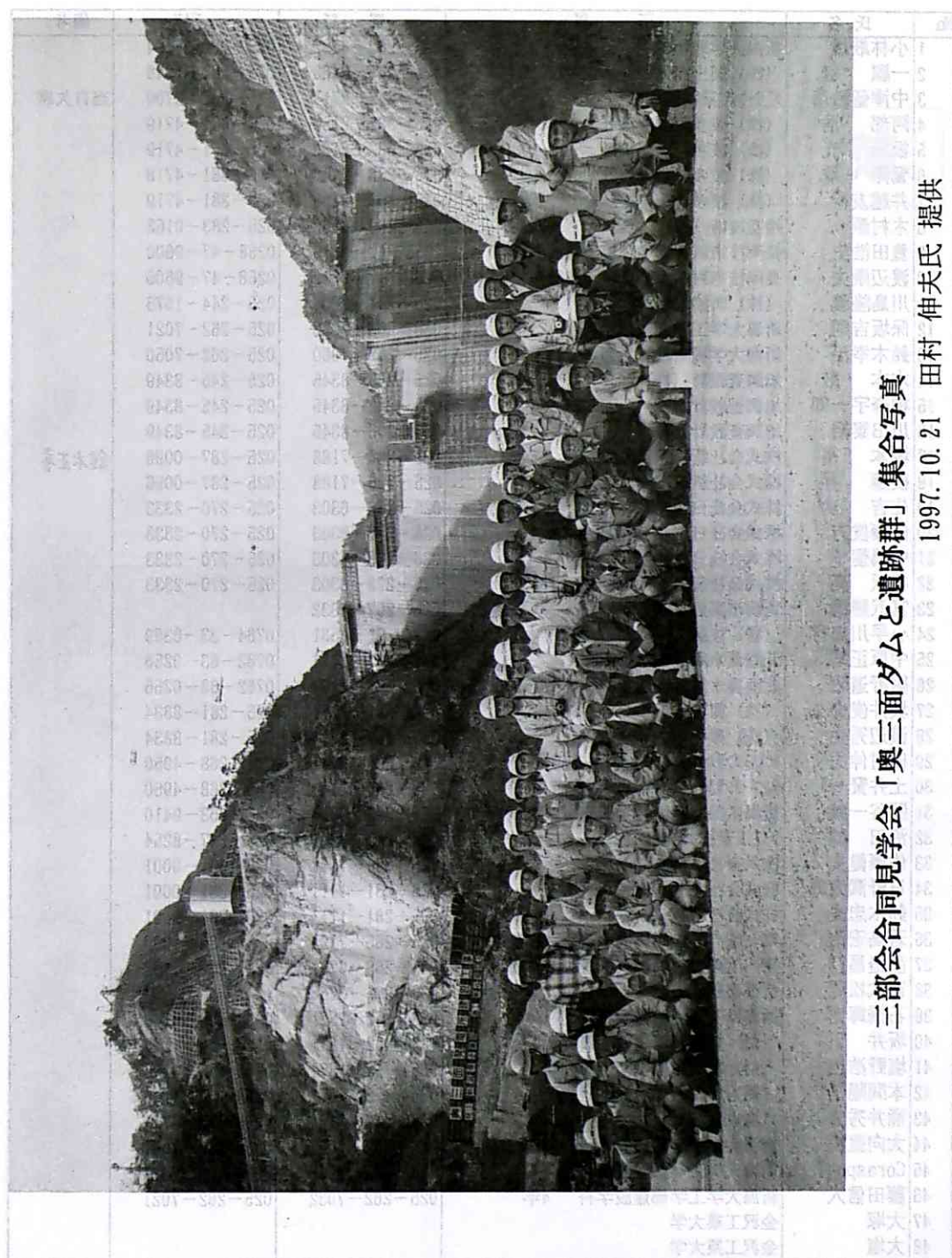


見学写真-2 元屋敷遺跡 出土年代測定のための断面



見学写真-4 発掘の状況





三部会合同見学会「奥三面ダムと遺跡群」集合写真

1997. 10. 21 田村伸夫氏 提供

# 平成9年度 奥三面ダム・遺跡発掘現場現地見学会参加者名簿

新潟応用地質研究会・技術士会北陸支部・地盤工学会北陸支部 3会共催

平成9年10月21日(火)

No.	氏名	所 属	電 話	FAX	備考
1	小林殿雄	新潟大学理学部	025-262-6192	025-262-6194	当日欠席
2	一 願 稔	(株) 国土開発センター新潟支店	025-283-2160	025-282-1948	
3	中津留敏彦	グリーン産業株式会社	025-242-2711	025-242-2700	
4	阿部 浩	(株) 波多野調査設計	025-382-2186	025-381-4719	
5	板垣 光	(株) 波多野調査設計	025-382-2186	025-381-4719	
6	鷲澤 聡	(株) 波多野調査設計	025-382-2186	025-381-4719	
7	井越友行	(株) 波多野調査設計	025-382-2186	025-381-4719	
8	木村源一	相互技術(株)	025-283-0150	025-283-0152	
9	豊田浩史	長岡技術科学大学環境・建設系	0258-47-9619	0258-47-9600	
10	渡辺康夫	長岡技術科学大学環境・建設系	0258-47-9619	0258-47-9600	
11	川島隆義	(株) 新協地質	025-244-7866	025-244-1673	鈴木正喜
12	保坂吉則	新潟大学工学部建設学科	025-262-7032	025-262-7021	
13	鈴木幸治	新潟大学環境地域災害研究センター	025-262-7060	025-262-7050	
14	木本 敏	旭調査設計(株)	025-245-8345	025-245-8349	
15	柏森宇一郎	旭調査設計(株)	025-245-8345	025-245-8349	
16	川田泰裕	旭調査設計(株)	025-245-8345	025-245-8349	
17	坂本 裕	株式会社新研基礎コンクリート	025-286-7188	025-287-0096	
18	後藤 昇	株式会社新研基礎コンクリート	025-286-7188	025-287-0096	
19	住吉 功	株式会社日さく 新潟支店	025-273-6303	025-270-2333	
20	伊藤俊方	株式会社日さく 新潟支店	025-273-6303	025-270-2333	
21	中嶋聖子	株式会社日さく 新潟支店	025-273-6303	025-270-2333	
22	相沢 亮	株式会社日さく 新潟支店	025-273-6303	025-270-2333	
23	宮沢勝雄	新潟市真砂町	025-267-3832		
24	小早川忠行	(株) 佐藤工業 北陸支店	0764-31-6531	0764-33-6369	
25	中原正幸	北陸農水局計画部資源課	0762-63-2161	0762-63-0256	
26	紺野道昭	北陸農水局計画部資源課	0762-63-2161	0762-63-0256	
27	坂井俊介	(株) 興和	025-281-8811	025-281-8834	
28	渡辺秀生	(株) 興和	025-281-8811	025-281-8834	
29	田村伸夫	リコ-コンクリート(株) 新潟支店	025-260-3141	025-268-4950	
30	土井賢一	リコ-コンクリート(株) 新潟支店	025-260-3141	025-268-4950	
31	関谷一義	新潟県保健環境科学研究所	025-263-9418	025-263-9410	
32	沼田 誠	ライ工業株式会社	025-247-8251	025-247-8254	
33	佐藤健夫	株式会社キタック	025-281-1111	025-281-0001	
34	日野潤太郎	株式会社キタック	025-281-1111	025-281-0001	
35	鈴木忠夫	株式会社キタック	025-281-1111	025-281-0001	
36	若島宏治	第一港湾建設局新潟調査設計事務所	025-265-7791	025-230-1092	
37	渡邊昌彦	第一港湾建設局新潟調査設計事務所	025-265-7791	025-230-1092	
38	百武松児	新潟市関屋松波町	025-265-3758		
39	石橋輝樹	新潟県三面川開発事務所	0254-52-1871	0254-52-4148	
40	坂井 正	(財) 新潟県環境衛生研究所	0254-52-1871	0254-52-4148	
41	塩野浩士	(財) 新潟県環境衛生研究所	0254-52-1871	0254-52-4148	
42	本間陽子	(財) 新潟県環境衛生研究所	0254-52-1871	0254-52-4148	
43	涌井秀夫	(株) 中元組	0258-75-3151	0258-75-3727	
44	大向直樹	新潟大学工学部建設学科 N2	025-262-7032	025-262-7021	
45	Coraspo Taro	新潟大学工学部建設学科 N2	025-262-7032	025-262-7021	
46	藤田信人	新潟大学工学部建設学科 4年	025-262-7032	025-262-7021	
47	大塚	金沢工業大学			
48	大塩	金沢工業大学			